

次世代都市

Urban Development in Next Generation

photo gallery

- 4 101年目の日立——次世代都市編

special report

- 8 健康いきいきまちづくり
ひたちなか市と日立グループによる中心市街地活性化

special talk

- 13 住む人に希望をもたらすサステイナブルシティの展望
大西 隆・八丁地 隆

overview

- 19 都市新時代の到来に応えるスマートシティソリューション
Hitachi's Smart City Solutions to Meet New Era of Urban Development
河野 通長・升山 義弘・加藤 信之・戸辺 昭彦

feature article

- 27 スマートな都市づくりに向けた海外での先行活動
Smart Infrastructure, Smart Society Activities towards International Market
紅林 利彦・升山 義弘・森田 清紀・谷口 直行・水木 文夫
- 31 Urban Solutions to City Living in Singapore and the Asian Belt Region
Rick Lee・Jimmy Song・Victor Sia・Danny Sher・Kian Seng Lee・Quee Chee Ng・Michelle Wong
- 37 エイジフリー社会をめざした都市の生活・環境パラダイム
Life and Environment Paradigm of a City towards Age-free Society
新谷 洋一・高田 久義・酒井 美智子・石岡 祥男・古谷 純
- 44 業務用ビルの省エネルギーに寄与するサービスと技術の動向
Energy Saving Service and Technology for Commercial Building
小野 保夫・北條 俊幸・渡邊 信也・長谷川 康之
- 48 将来都市交通要素としての自律移動技術
Autonomous Moving Technology for Future Urban Mobility Element
細田 祐司・古賀 昌史・山本 健次郎
- 53 都市の次世代縦移動インフラを築く世界一の研究塔とエレベーター新技術
New Elevator Research Tower and Newly-developed Technologies
Building Next-generation Vertical Mobility Infrastructure of City
大宮 昭弘・田島 泰彦
- 58 地理空間情報の活用による人と環境に配慮した都市づくり
Human- and Environment-friendly City Enhanced by Geo-spatial Information
富田 仁志・前田 遭・升山 義弘・下垣 豊・藤井 健二郎
- 64 自治体の広域連携を支える消防・防災ソリューション
Solution for Fire Dispatching System and Disaster Information Management Systems
Aiming at Wide-area Cooperation of Local Governments
寺谷 匡生・小林 賢司・齋田 貴弘・吉川 健多郎・川島 洋平
- 70 歩きたくなる街
—生活者の視点からの環境構築—
Attractive Walking Town Environment Based on Life-style of City Dwellers
那須 守・矢代 嘉郎

特集

次世代都市

Urban Development in Next Generation

地球規模でのさまざまな影響が懸念されている環境問題に対し、
低炭素都市の実現に代表される根本的な解決策が動き始めている。
先進国における都市の高齢化、新興国における都市人口の拡大といった課題も
顕在化する中で、世界の都市開発は新たな時代を迎えている。
エネルギー、モビリティ、ビルシステム、水処理、セキュリティ、情報通信、情報制御など、
都市インフラに求められる技術は幅広い。
日立グループはそれら都市開発にかかわるさまざまな技術を統合し、
「スマートシティ」の実現に挑んでいる。
低炭素化と社会の発展を両立する持続可能な都市へ、
だれもが便利に、安心して暮らせる都市へ。
100年後の未来を見つめながら、日立グループが都市の新時代を切りひらいていく。

前回「日立評論」で都市開発ソリューションの特集を組んだ2008年9月号からの約2年間で、世界の都市開発のメガトレンドは大きく変わりました。

当時、国内では地方都市の過疎化や郊外化への対策として、中心市街地活性化やコンパクトシティが注目されていました。海外では、ドバイにおける大規模なリゾート都市の開発が世界の耳目を集めていました。その後、低炭素社会への移行が世界的な合意として確立され、各国が温室効果ガスの削減目標を制定するなど、「低炭素都市」の建設が先進国と開発途上国の双方にとって最優先課題になりました。また、2008年秋の世界金融危機を契機に中東諸国での大都市開発は減速し、これに代わって中国で「生態城（エコシティ）」の建設計画が次々と発表されるとともに、世界各国で都市、発電所、高速鉄道などのインフラ投資への重点化が進んでいます。また、政府が官民連携で「インフラ輸出」を後押しする姿勢を明確にし、閣僚のトップセールスやインフラ整備に関する政府間協力の締結に動き始めたことも大きな変化です。

その間、日立グループはインフラを中心とした「社会イノベーション事業」を経営の柱とする方針を明確にし、この分野の事業の拡張と研究開発の重点化を進めています。日立製作所は2007年度から、事業分野をまたがった骨太な新事業の創生をめざす「Next A事業活動」を実施し、その一つとして都市開発分野で日立グループの総合力を発揮するための「Next Cityプロジェクト」を2010年3月まで推進しました。この活動では、都市開発分野の中で日立グループの強みを発揮できる事業や強化が必要な事業を明らかにし、提案するためのチャンネルを構築するなど、2010年4月に設置されたスマートシティ事業統括本部の活動につながる基礎が形成されたと考えています。

都市開発の分野は、エネルギーや水処理、鉄道など、日立グループのさまざまな事業が関連しています。今回はその中でも特に、海外での都市開発や「都市と情報」という観点からの取り組み、健康まちづくりへの取り組みなどを中心に編集しました。また、創業100周年記念シリーズの本特集向けに、Next Cityプロジェクトでの協創パートナーである清水建設株式会社から寄稿いただきました。

都市開発の上流からコンセプトを提案し、参画する日立グループの取り組みは緒に就いたばかりであり、今回はその紹介にとどまりますが、次回の都市開発特集ではその成果を報告できることを期待しています。

特集「次世代都市」監修

日立製作所

グループ経営企画室 兼 スマートシティ事業統括本部

主管技師長

河野 通長



次号掲載予定記事

特集

電池・電動コンポーネント

主要記事

photo gallery

101年目の日立

——電池・電動コンポーネント編

special report

モータの進化は「グリーン社会」に直結する

special talk

低炭素社会を支える

電池・電動コンポーネントの進化

経済産業省大臣官房審議官 西本淳哉
日立製作所執行役専務 電池システム社社長 兼
日立マクセル社長 角田義人

overview

低炭素社会の構築に貢献する

電池・電動コンポーネント

※都合により掲載内容を変更する場合があります。

内藤 理
河野 通長

企画委員

委員長	小豆畑 茂
委 員	中西 敬一郎
〃	尾内 享裕
〃	中村 斉
〃	岩崎 重美
〃	西 高志
〃	加藤 信之
〃	大橋 行彦
〃	渡辺 克行
〃	坂本 吉行
〃	堀江 武
〃	山野 陽一
〃	渡辺 勝彦
〃	小高 仁
〃	土井 秀明
〃	谷口 素也
〃	井上 晃
〃	中越 新
〃	望月 明
〃	家次 晃

日立評論 第92巻第11号

発 行 日	2010年11月1日
発 行	日立評論社 東京都千代田区大手町二丁目2番1号 〒100-0004 電話 (03)3258 -1111(大代)
編集兼発行人	家次 晃
印 刷	㊤日立インターメディアックス株式会社
定 価	1部735円(本体700円)送料別
取 次 店	株式会社オーム社 東京都千代田区神田錦町三丁目1番地 〒101-8460 電話 (03)3233 - 0641(代) 振替口座 00160-8-20018

- ◇ 本誌掲載の論文はインターネットでご覧いただけます。
日立評論 <http://www.hitachihyoron.com/>
HITACHI REVIEW(英文) <http://www.hitachi.com/rev/>
- ◇ 本誌に関する個人情報の取り扱いについて
<http://www.hitachihyoron.com/privacy/>
- ◇ 本誌に関するお問い合わせ
<http://hitachihyoron.com/inquiry/>

【お詫び・訂正】

本誌2010年10月号68ページ掲載の図11におきまして、材質の表記に誤記がありました。「PETウール」となっておりますが、正しくは「グラスウール」です。関係者ならびに読者の皆さまには大変ご迷惑をおかけしました。
謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。

本誌に記載している会社名・製品名などは、それぞれの会社の商標または登録商標です。